

自慢農産物でスムーズー

豊橋の農家集団 キッチンカーで販売

東三河の農業のレベルアップを目指す農家集団「豊橋百農人」が、キッチンカーで自慢の野菜や果物を使ったスムーズーの移動販売を始めた。継続して東三河の農産物や加工品を販売する考えで、冬にかけてはオリジナル丼やスープも提供し、「農業王国」の高品質ぶりを地元で知ってもらう。(小椋由紀子)

「作っておしまい」の農業を変えていきたい。農産物は手塩にかけた作品。消費者に直接良さを伝えたり、意見を聞く場が欲しかった」と事務局長の清水貴裕さん(四七)は語る。

将来的には、対面販売で「こだわり」を直接消費者に伝えるアンテナショップの設立を

目指している。その第一歩として、二月から、キッチンカーを導入。プ、おにぎりなど軽食を販売する(原則火一木曜)。

東三河の農産物は主に関東に出荷され、首に関東での認知度が高い地元の農産物を使ったため、キッチンカーに田原ポーク丼や名古屋は出店要請が相次いでコーチン井など「百農人」とい。清水さん人井」を開発し、春からは「素材が良いからおイベント会場などでいい。でも地元では販売。夏にはイチゴやあまり認知されていないはちみつ、牛乳、ヨー。まずは東三河を回す。ヤーなどを使った」とり、こだわりを伝えたいよはしスムーズー」と話している。

種を開発。九月から中 問い合わせは、豊橋日本株式会社(大岩 百農人事務局) 電05町)の直売所「たまご 32(48) 5980」の「がっこう」に定期出へ。



店している。今後、二十日に豊橋市役所などである環境フェスタなど、イベント会場で井や「炭焼きつづら肉つくね」を販売するほか、たまご



農家のこだわりを伝えるキッチンカーとオリジナルスムーズー。豊橋市大岩町で



豊橋百農人 豊橋市のレモン農家河合浩樹さんが2009年に設立。生産品の品質だけでなく、消費者への発信意欲などを顧客や生産者間で評価し、順位付けしている。「百農人」に認定されているのは、豊橋市や田原市の柿、花、米、イチゴ、養鶏、養豚農家ら13人。